

常任委員会 行政視察報告



総務

平成23年11月7日～9日の日程で、埼玉県富士見市において、情報共有や透明性の確保、行財政改革の推進に資することを目的として、市民および外部の識者による全国初の事業仕分けを実施した経緯について研修した。

21年度において、40事業を対象に仕分けを実施し、その結果を踏まえて22年度予算で4事業の廃止及び4事業の経費削減により2,500万円を節減した。

研修2日目は、東京都江東区・墨田区における都市防災について研修。防災計画は、区議会議員も参画し策定された。海抜0メートル地帯を抱えていることから、海抜を表示した啓発塔が随所に設置されている。両区ともに、関東大震災・東京大空襲などを経て区画整理され、現在に至るが下

町の情緒漂う町並みや下町に息づく、ものづくりの場はしっかりと維持されている。

「防災対策の一例」

①区民を災害から守る助成事業として、一戸建て木造住宅、賃貸マンションを対象とした、防災改裝費の助成 ②民間29団体との災害時協力協定の締結 ③避難所185カ所（うち、中高75校を含む）143,660人収容可能 ④備蓄物資食料品6品目（60万食）・生活必需品26品目・資機材31品目 ⑤災害協力隊 286隊6,423名 ⑥貸出防災啓発ビデオ82本を有し、広く区民に貸し出している。

墨田区においては、幹線道路に初期消火のため、50mおきに消火器が設置されている。しかし、災害対策に万全という言葉は存在しないと改めて感じた。



埼玉県富士見市役所での研修風景

産業建設

11月21日～23日の日程で、山形県西置賜郡小国町、山形県最上郡最上町、山形県尾花沢市、秋田県横手市を視察研修してきた。

11月21日～23日の日程で、山形県西置賜郡小国町、山形県最上郡最上町、山形県尾花沢市、秋田県横手市を視察研修してきた。

小国町森林組合では、森林組合における農業機械化と作業班体制について、山形県最上郡最上町では、木質バイオマス事業と地域林産業の育成について、JAみちのく村山尾花では、JAみちのく村山の概要と、遠野産牛の肥育状況について、秋田県横手市十二しゅう担い手生産組合では、農業振興における農家組合経営について、多岐にわたる研修があった。紙面の都合上、山形県小国町での視察研修について、抜粋して報告する。

小国町の森林面積は、69,703㎡で、森林組合では、高性能作業機械の導入により低コスト化された素材生産が2万500立方であり、作業班は、4人体制の3班で杉中心と広葉樹中心と分かれて生産している。木質チップは年間4,000tの生産で冬はチップ

ボイラー用の燃料として、夏はパルプ工場に納入している。さらに、直売所を経営し、山菜やきのこの販売で年間5億5千万円から6億円の売り上げを上げている。こうした体制づくりにより、作業員の通年雇用という就労の安定長期化を図っていた。



山形県小国町森林組合での研修風景